

キャリアアッププログラム 開催記録 (2009年度～2017年度)

回	目的分類	開催日	時間	講師	テーマ	募集人数	対象	目標
第71回	授業運営・ICT	2018/03/13(火)	13:30～15:30	杉井 俊夫 教授(大学教育研究センターセンター長、都市建設工学科) 寺澤 朝子 教授(経営情報学部経営総合学科)	授業の双方向性を高めるCumoc(キューモ: Chubu University Mobile Clicker)の活用	20	全教職員	① Cumocを利用した授業運営について理解し、授業改善アンケートシステムをクリックーとして利用することができる。 ② 仮想環境を活用した実習を通して教員(PC)、学生(携帯電話、PC)双方の操作を経験し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第70回	学生への対応(自己表現)	2018/03/02(金)	13:00～15:00	沖 裕貴 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター長・教授)	アンガーマネジメント	30	全教職員	①怒りが湧いているとき、それがどのようにして人に伝わるかを説明できる。 ②怒りに身体がどのように反応するかを説明できる。 ③怒りを感じたときのことを思い出し、説明することができる。 ④怒りを静める方法を知り、身につけることができる。
第69回	授業技術(話し方)	2018/02/16(金)	15:00～17:00	稲葉 寿美 大学教育研究センター客員教授(フリーアナウンサー、株式会社INANAエンタープライズ代表取締役)	総合テーマ:伝える伝わる話し方ー聴き手がまとめやすくなる話し方ー	10	全教職員	①話し方の基本である発声や発音などの実習を通して“声を磨く”トレーニング法を身につける。 ②授業において、導入(第67回)、展開(第68回)、まとめ(第69回)における話し方を学ぶことで、よりわかりやすく伝えることができるようになる。 ③効果的な話し方や表現方法などを理解し、習得したことを授業に活かすことができるようになる。
第68回	授業技術(話し方)	2018/02/08(木)	15:00～17:00	稲葉 寿美 大学教育研究センター客員教授(フリーアナウンサー、株式会社INANAエンタープライズ代表取締役)	総合テーマ:伝える伝わる話し方ー聴き手を飽きさせないわかりやすい話し方ー	10	全教職員	①話し方の基本である発声や発音などの実習を通して“声を磨く”トレーニング法を身につける。 ②授業において、導入(第67回)、展開(第68回)、まとめ(第69回)における話し方を学ぶことで、よりわかりやすく伝えることができるようになる。 ③効果的な話し方や表現方法などを理解し、習得したことを授業に活かすことができるようになる。
第67回	授業技術(話し方)	2018/01/19(金)	10:00～12:00	稲葉 寿美 大学教育研究センター客員教授(フリーアナウンサー、株式会社INANAエンタープライズ代表取締役)	総合テーマ:伝える伝わる話し方ー聴き手を惹きつける話し方ー	10	全教職員	①話し方の基本である発声や発音などの実習を通して“声を磨く”トレーニング法を身につける。 ②授業において、導入(第67回)、展開(第68回)、まとめ(第69回)における話し方を学ぶことで、よりわかりやすく伝えることができるようになる。 ③効果的な話し方や表現方法などを理解し、習得したことを授業に活かすことができるようになる。
第66回	授業運営・ICT	2017/09/15(金)	9:30～11:30	杉井 俊夫 教授(大学教育研究センターセンター長、都市建設工学科) 寺澤 朝子 教授(経営情報学部経営総合学科)	授業の双方向性を高めるCumoc(キューモ: Chubu University Mobile Clicker)の活用	20	全教職員	① Cumocを利用した授業運営について理解し、授業改善アンケートシステムをクリックーとして利用することができる。 ② 仮想環境を活用した実習を通して教員(PC)、学生(携帯電話、PC)双方の操作を経験し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第65回	学生への対応	2017/09/04(月)	10:00～12:00	佐藤 枝里 (学生相談室カウンセラー・准教授)	最近の学生の特徴と学生との接し方	50	全教職員	① ライフサイクルの中の学生期の役割と最近の若者の傾向を理解する。 ② 受容と共感について学び、会話のキャッチボールを続ける技術、聴く技術を身につける。
第64回	授業デザイン(授業設計・模擬授業)	2017/09/01(金)	13:30～16:00	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター長・教授)	強制連結法を活用したマイクロ・ティーチング	5	全教職員	①強制連結法を用いて授業を設計できる。「強制連結法」は、人の考えを視覚化する方法として利用するイメージマッピング法のひとつです。講義で教員が伝達したい知識を、受講生の関心を引きつつ、どのような順番で分かり易く伝えるのかなど、自らの思考経路を把握することにも役立ちます。 ②強制連結法を用いて設計した授業を実施、相互評価することができる。
第63回	学生への対応(自己表現)	2017/09/01(金)	10:00～12:00	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター長・教授)	アンガーマネジメント	30	全教職員	①怒りが湧いているとき、それがどのようにして人に伝わるかを説明できる。 ②怒りに身体がどのように反応するかを説明できる。 ③怒りを感じたときのことを思い出し、説明することができる。 ④怒りを静める方法を知り、身につけることができる。
第62回	授業運営・ICT	2017/03/24(金)	10:00～12:00	杉井 俊夫 教授(大学教育研究センターセンター長、都市建設工学科) 寺澤 朝子 教授(大学教育研究センター副センター長、経営学科)	授業の双方向性を高めるCumoc(キューモ: Chubu University Mobile Clicker)の活用	20	全教職員	① Cumocを利用した授業運営について理解し、授業改善アンケートシステムをクリックーとして利用することができる。 ② 仮想環境を活用した実習を通して教員(PC)、学生(携帯電話、PC)双方の操作を経験し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第61回	授業デザイン(成績評価方法)	2017/03/14(火)	14:00～16:00	杉井 俊夫 教授(大学教育研究センターセンター長、都市建設工学科)	学習達成度評価(ルーブリック評価)	30	全教職員	①授業の到達目的に合った試験、課題等が作成できる。 ②学生に対し評価の観点や評価方法について適切に説明できる。

キャリアアッププログラム 開催記録 (2009年度～2017年度)

第60回	授業技術(話し方)	2017/03/10(金)	15:00～17:00	稲葉 寿美 大学教育研究センター客員教授(フリーアナウンサー、株式会社INANAエンタープライズ代表取締役)	総合テーマ:伝える伝わる話し方ー聴き手がまとめやすくなる話し方ー	10	全教職員	①話し方の基本である発声や発音などの実習を通して“声を磨く”トレーニング法を身につける。 ②授業において、導入(第57回)、展開(第58回)、まとめ(第60回)における話し方を学ぶことで、よりわかりやすく伝えることができるようになる。 ③効果的な話し方や表現方法などを理解し、習得したことを授業に活かすことができるようになる。
第59回	学生への対応(自己表現)	2017/03/06(月)	15:00～17:00	西口 利文 氏 大阪産業大学 教養部 教授	コミュニケーションのレパトリーを広げる	30	全教職員	①アサーティブ行動、アイメッセージ、リフレーミングの技法について理解できる。 ②状況に適したコミュニケーションを実践するためのレパトリーを身につける。
第58回	授業技術(話し方)	2017/02/24(金)	15:00～17:00	稲葉 寿美 大学教育研究センター客員教授(フリーアナウンサー、株式会社INANAエンタープライズ代表取締役)	総合テーマ:伝える伝わる話し方ー聴き手を飽きさせないわかりやすい話し方ー	10	全教職員	①話し方の基本である発声や発音などの実習を通して“声を磨く”トレーニング法を身につける。 ②授業において、導入(第57回)、展開(第58回)、まとめ(第60回)における話し方を学ぶことで、よりわかりやすく伝えることができるようになる。 ③効果的な話し方や表現方法などを理解し、習得したことを授業に活かすことができるようになる。
第57回	授業技術(話し方)	2017/02/16(木)	10:00～12:00	稲葉 寿美 大学教育研究センター客員教授(フリーアナウンサー、株式会社INANAエンタープライズ代表取締役)	総合テーマ:伝える伝わる話し方ー聴き手を惹きつける話し方ー	10	全教職員	①話し方の基本である発声や発音などの実習を通して“声を磨く”トレーニング法を身につける。 ②授業において、導入(第57回)、展開(第58回)、まとめ(第60回)における話し方を学ぶことで、よりわかりやすく伝えることができるようになる。 ③効果的な話し方や表現方法などを理解し、習得したことを授業に活かすことができるようになる。
第56回	学生への対応	2016/09/08(木)	14:00～16:00	桐山 雅子 (学生相談室カウンセラー・教授)	最近の学生の特徴と学生との接し方	50	全教職員	①ライフサイクルの中の学生期の役割と最近の若者の傾向を理解する。 ②受容と共感について学び、会話のキャッチボールを続ける技術、聴く技術を身につける。
第55回	授業運営・ICT	2016/09/07(水)	10:00～12:00	杉井 俊夫 教授(大学教育研究センターセンター長、都市建設工学科) 寺澤 朝子 教授 (経営情報学部経営総合学科)	授業の双方向性を高めるCumoc(キューモ:Chubu University Mobile Clicker)の活用	20	全教職員	①Cumocを利用した授業運営について理解し、授業改善アンケートシステムをクリックーとして利用することができる。 ②仮想環境を活用した実習を通して教員(PC)、学生(携帯電話、PC)双方の操作を経験し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第54回	授業技術(話し方)	2016/07/28(木)	14:00～16:00	稲葉 寿美 大学教育研究センター客員教授(フリーアナウンサー、株式会社INANAエンタープライズ代表取締役)	総合テーマ:伝える伝わる話し方ー聴き手がまとめやすくなる話し方ー	10	全教職員	①話し方の基本である発声や発音などの実習を通して“声を磨く”トレーニング法を身につける。 ②授業において、導入(第44回)、展開(第45回)、まとめ(第46回)における話し方を学ぶことで、よりわかりやすく伝えることができるようになる。 ③効果的な話し方や表現方法などを理解し、習得したことを授業に活かすことができるようになる。
第53回	授業デザイン(シラバス)	2016/07/27(水)	15:30～17:30	佐藤 浩章 氏 (大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授)	授業時間外学習を促すシラバスの書き方	30	全教職員	(1)シラバスの役割について説明することができる。 (2)受講生にとってわかりやすいシラバスを書くことができる。 (3)受講生の授業時間外学習を促すシラバスを書くことができる。
第52回	教育システム	2016/07/27(水)	13:00～15:00	佐藤 浩章 氏 (大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授)	3つのポリシーの作成と一貫性構築手法	50	全教職員	(1)3ポリシーの作成の意義について、説明できる。 (2)3ポリシーの望ましい表現方法について、説明することができる。 (3)事例で示された3つのポリシーの問題点を指摘し、修正できる。
第51回	授業技術(話し方)	2016/07/22(金)	10:00～12:00	稲葉 寿美 大学教育研究センター客員教授(フリーアナウンサー、株式会社INANAエンタープライズ代表取締役)	総合テーマ:伝える伝わる話し方ー聴き手を飽きさせないわかりやすい話し方ー	10	全教職員	①話し方の基本である発声や発音などの実習を通して“声を磨く”トレーニング法を身につける。 ②授業において、導入(第44回)、展開(第45回)、まとめ(第46回)における話し方を学ぶことで、よりわかりやすく伝えることができるようになる。 ③効果的な話し方や表現方法などを理解し、習得したことを授業に活かすことができるようになる。
第50回	授業技術(話し方)	2016/07/08(金)	15:30～17:30	稲葉 寿美 大学教育研究センター客員教授(フリーアナウンサー、株式会社INANAエンタープライズ代表取締役)	総合テーマ:伝える伝わる話し方ー聴き手を惹きつける話し方ー	10	全教職員	①話し方の基本である発声や発音などの実習を通して“声を磨く”トレーニング法を身につける。 ②授業において、導入(第44回)、展開(第45回)、まとめ(第46回)における話し方を学ぶことで、よりわかりやすく伝えることができるようになる。 ③効果的な話し方や表現方法などを理解し、習得したことを授業に活かすことができるようになる。

キャリアアッププログラム 開催記録 (2009年度～2017年度)

第49回	授業デザイン (成績評価方法)	2016/03/03(木)	15:30～17:30	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター長・教授)	学習達成度評価(ルーブリック評価)	30	全教員	①授業の到達目的に合った試験、課題等が作成できる。 ②学生に対し評価の観点や評価方法について適切に説明できる。
第48回	学生への対応	2016/03/03(木)	13:00～15:00	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター長・教授)	現代の若者像ー学びから逃走する若者たちー	50	全教職員	① 青少年の学力・学習意欲の低下と将来への希望の喪失の実態を説明することができる。 ② 青少年の学力・学習意欲の低下と将来への希望の喪失の背景を説明することができる。
第47回	授業運営・ICT	2016/03/02(水)	10:00～12:00	杉井 俊夫 教授 (大学教育研究センターセンター長、都市建設工学科) 寺澤 朝子 教授 (大学教育研究センター副センター長、経営学科)	授業の双方向性を高めるCumoc(キューモ:Chubu University Mobile Clicker)の活用	20	全教員	① Cumocを利用した授業運営について理解し、授業改善アンケートシステムをクリックーとして利用することができる。 ② 仮想環境を活用した実習を通して教員(PC)、学生(携帯電話、PC)双方の操作を経験し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第46回	授業技術(話し方)	2016/01/08(金)	15:20～17:20	稲葉 寿美 大学教育研究センター客員教授(フリーアナウンサー、株式会社INANAエンタープライズ代表取締役)	総合テーマ:伝える伝わる話し方ー聴き手がまとめやすくなる話し方ー	10	全教職員	①話し方の基本である発声や発音などの実習を通して“声を磨く”トレーニング法を身につける。 ②授業において、導入(第44回)、展開(第45回)、まとめ(第46回)における話し方を学ぶことで、よりわかりやすく伝えることができるようになる。 ③効果的な話し方や表現方法などを理解し、習得したことを授業に活かすことができるようになる。
第45回	授業技術(話し方)	2015/12/24(木)	14:00～16:00	稲葉 寿美 大学教育研究センター客員教授(フリーアナウンサー、株式会社INANAエンタープライズ代表取締役)	総合テーマ:伝える伝わる話し方ー聴き手を飽きさせないわかりやすい話し方ー	10	全教職員	①話し方の基本である発声や発音などの実習を通して“声を磨く”トレーニング法を身につける。 ②授業において、導入(第44回)、展開(第45回)、まとめ(第46回)における話し方を学ぶことで、よりわかりやすく伝えることができるようになる。 ③効果的な話し方や表現方法などを理解し、習得したことを授業に活かすことができるようになる。
第44回	授業技術(話し方)	2015/12/04(金)	15:20～17:20	稲葉 寿美 大学教育研究センター客員教授(フリーアナウンサー、株式会社INANAエンタープライズ代表取締役)	総合テーマ:伝える伝わる話し方ー聴き手を惹きつける話し方ー	10	全教職員	①話し方の基本である発声や発音などの実習を通して“声を磨く”トレーニング法を身につける。 ②授業において、導入(第44回)、展開(第45回)、まとめ(第46回)における話し方を学ぶことで、よりわかりやすく伝えることができるようになる。 ③効果的な話し方や表現方法などを理解し、習得したことを授業に活かすことができるようになる。
第43回	授業運営・ICT	2015/09/09(水)	14:30～16:30	杉井 俊夫 教授 (大学教育研究センターセンター長、都市建設工学科) 寺澤 朝子 教授 (大学教育研究センター副センター長、経営学科)	授業の双方向性を高めるCumoc(キューモ:Chubu University Mobile Clicker)の活用	20	全教職員	① Cumocを利用した授業運営について理解し、授業改善アンケートシステムをクリックーとして利用することができる。 ② 仮想環境を活用した実習を通して教員(PC)、学生(携帯電話、PC)双方の操作を経験し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第42回	学生への対応 (自己表現)	2015/09/08(火)	16:00～17:30	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター長・教授)	相互理解を深めるコミュニケーションーアサーション(自分も相手も大切に自己表現の方法)を学ぶー	30	全教職員	①自分の指示や指導の仕方の特徴を知ることができる。 ②自分の気持ちも相手の気持ちも大切に指示、指導を身につけることができる。
第41回	授業デザイン (成績評価方法)	2015/09/08(火)	13:30～15:30	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育・学修支援センター長・教授)	学習達成度評価(ルーブリック評価)	30	全教員	①授業の到達目的に合った試験、課題等が作成できる。 ②学生に対し評価の観点や評価方法について適切に説明できる。
第40回	授業デザイン(授業設計・模擬授業)	2015/09/07(月)	13:30～17:00	杉井 俊夫 教授 (大学教育研究センターセンター長、都市建設工学科) 寺澤 朝子 教授 (大学教育研究センター副センター長、経営学科)	強制連結法を活用したマイクロ・ティーチング	10	全教職員	①強制連結法を用いて授業を設計できる。 ②強制連結法を用いて設計した授業を実施、相互評価することができる。
第39回	学生への対応	2015/09/07(月)	10:00～12:00	桐山 雅子 (学生相談室カウンセラー・教授)	最近の学生の特徴と学生との接し方	50	全教職員	① ライフサイクルの中の学生期の役割と最近の若者の傾向を理解する。 ② 受容と共感について学び、会話のキャッチボールを続ける技術、聴く技術を身につける。

キャリアアッププログラム 開催記録 (2009年度～2017年度)

第38回	学生への対応 (自己表現)	2015/03/12(木)	13:30～15:00	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長・教授)	感情を表現する力 - I Message -	40	全教職員	① 効果的な感情表現ができる。 ② 「I Message」の考え方を理解し、使うことができる。
第37回	授業技術(話し方)	2015/03/03(火)	10:00～12:00	芳川 猛 大学教育研究センター客員教授(元東海テレビアナウンサー)	講義のための「話し方の基本」	10	全教員	自分の話し方を分析するとともに、日本語の発声・発音の特徴を理解し、聞き手が聞き取りやすい話し方、および講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して理解し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第36回	授業運営・ICT	2015/03/02(月)	10:00～12:00	杉井 俊夫 教授 (大学教育研究センター副センター長、都市建設工学科) 寺澤 朝子 教授 (大学教育研究センター副センター長、経営学科)	授業の双方向性を高めるCumoc(キューモ: Chubu University Mobile Clicker)の活用	20	全教員	① Cumocを利用した授業運営について理解し、授業改善アンケートシステムをクリックカーとして利用することができる。 ② 仮想環境を活用した実習を通して教員(PC)、学生(携帯電話、PC)双方の操作を経験し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第35回	授業運営・ICT	2014/09/17(水)	10:00～12:00	杉井 俊夫 教授 (大学教育研究センター副センター長、都市建設工学科) 寺澤 朝子 教授 (大学教育研究センター副センター長、経営学科)	授業の双方向性を高めるCumoc(キューモ: Chubu University Mobile Clicker)の活用	20	全教員	① Cumocを利用した授業運営について理解し、授業改善アンケートシステムをクリックカーとして利用することができる。 ② 仮想環境を活用した実習を通して教員(PC)、学生(携帯電話、PC)双方の操作を経験し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第34回	学生への対応	2014/09/09(火)	14:00～16:00	桐山 雅子 (学生相談室カウンセラー・教授)	最近の学生の特徴と学生との接し方	50	全教職員	① ライフサイクルの中の学生期の役割と最近の若者の傾向を理解する。 ② 受容と共感について学び、会話のキャッチボールを続ける技術、聴く技術を身につける。
第33回	授業技術(話し方)	2014/09/09(火)	10:00～12:00	芳川 猛 大学教育研究センター客員教授(元東海テレビアナウンサー)	講義のための「話し方の基本」	12	全教員	自分の話し方を分析するとともに、日本語の発声・発音の特徴を理解し、聞き手が聞き取りやすい話し方、および講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して理解し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第32回	授業デザイン(成績評価方法)	2014/09/01(月)	15:20～17:20	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長・教授)	学習達成度評価(ルーブリック評価)	40	全教員	① 授業の到達目的に合った試験、課題等が作成できる。 ② 学生に対し評価の観点や評価方法について適切に説明できる。
第31回	授業デザイン(授業設計)	2014/09/01(月)	13:30～15:00	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長・教授)	強制連結法を使った授業設計(特にアクティブ・ラーニングの導入)	40	全教員	① 強制連結法を用いて授業を設計できる。
第30回	授業技術(伝える力)	2014/03/13(木)	16:00～17:30	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長・教授)	話を盛り上げ効果的に伝える力(ハンドジェスチャー)	40	全教職員	① スピーチに伴うハンドジェスチャーの効果について、ジェスチャーの種類(リズム、表情的)ごとに説明することができる。 ② 話の内容に合った、適切なハンドジェスチャーを行うことができる。
第29回	学生への対応(自己表現)	2014/03/13(木)	13:30～15:00	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長・教授)	相手を意欲的にする力(ほめ言葉)	40	全教職員	① 相手に自信を与え、意欲的にするための効果的なほめ方を説明し、実践することができる。
第28回	授業技術(話し方)	2014/03/11(火)	14:00～16:00	芳川 猛 大学教育研究センター客員教授(元東海テレビアナウンサー)	講義のための「話し方の基本」	10	全教員	自分の話し方を分析するとともに、日本語の発声・発音の特徴を理解し、聞き手が聞き取りやすい話し方、および講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して理解し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。

キャリアアッププログラム 開催記録 (2009年度～2017年度)

第27回	授業デザイン(授業設計・模擬授業)	2013/09/17(火)	13:30～17:00	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長・教授)	強制連結法を活用したマイクロ・ティーチング	10	全教員	①強制連結法を用いて授業を設計できる。 「強制連結法」は、人の考えを視覚化する方法として利用するイメージマッピング法のひとつです。講義で教員が伝達したい知識を、受講生の関心を引きつつ、どのような順番で分かり易く伝えるのかなど、自らの思考経路を把握することにも役立ちます。 ②強制連結法を用いて設計した授業を実施、相互評価することができる。
第26回	授業技術(話し方)	2013/09/11(水)	13:30～15:30	芳川 猛 大学教育研究センター客員教授(元東海テレビアナウンサー)	講義のための「話し方の基本」	10	全教員	自分の話し方を分析するとともに、日本語の発声・発音の特徴を理解し、聞き手が聞き取りやすい話し方、および講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して理解し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第25回	授業技術(話し方)	2013/09/11(水)	10:00～12:00	芳川 猛 大学教育研究センター客員教授(元東海テレビアナウンサー)	講義のための「話し方の基本」	10	全教員	自分の話し方を分析するとともに、日本語の発声・発音の特徴を理解し、聞き手が聞き取りやすい話し方、および講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して理解し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第24回	学生への対応	2013/09/10(火)	15:00～17:00	桐山 雅子 (学生相談室カウンセラー・教授)	最近の学生の特徴と学生との接し方	50	全教職員	①ライフサイクルの中の学生期の役割と最近の若者の傾向を理解する。 ② 受容と共感について学び、会話のキャッチボールを続ける技術、聴く技術を身につける。
第23回	授業運営・ICT	2013/09/10(火)	10:00～12:00	杉井 俊夫 教授 (大学教育研究センター副センター長、都市建設工学科) 寺澤 朝子 教授 (大学教育研究センター副センター長、経営学科)	授業の双方向性を高めるCumoc(キューモ:Chubu University Mobile Clicker)の活用	20	全教員	① Cumocを利用した授業運営について理解し、授業改善アンケートシステムをクリックカーとして利用することができる。 ② 仮想環境を活用した実習を通して教員(PC)、学生(携帯電話、PC)双方の操作を経験し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第22回	授業運営・ICT	2013/03/19(火)	14:00～16:00	杉井 俊夫 教授 (大学教育研究センター副センター長、都市建設工学科) 寺澤 朝子 教授 (大学教育研究センター副センター長、経営学科)	授業の双方向性を高めるCumoc(キューモ:Chubu University Mobile Clicker)の活用	20	全教員	① Cumocを利用した授業運営について理解し、授業改善アンケートシステムをクリックカーとして利用することができる。 ② 仮想環境を活用した実習を通して教員(PC)、学生(携帯電話、PC)双方の操作を経験し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第21回	授業技術(話し方)	2013/03/18(月)	14:00～16:00	芳川 猛 大学教育研究センター客員教授(元東海テレビアナウンサー)	講義のための「話し方の基本」	12	全教員	自分の話し方を分析するとともに、日本語の発声・発音の特徴を理解し、聞き手が聞き取りやすい話し方、および講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して理解し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第20回	授業デザイン(成績評価方法)	2013/03/05(火)	15:30～17:30	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長・教授)	学習達成度評価(ルーブリック評価)	30	全教員	①授業の到達目的に合った試験、課題等が作成できる。 ②学生に対し評価の観点や評価方法について適切に説明できる。
第19回	授業技術(話し方)	2013/02/28(木)	10:00～12:00	芳川 猛 大学教育研究センター客員教授(元東海テレビアナウンサー)	講義のための「話し方の基本」	12	全教員	自分の話し方を分析するとともに、日本語の発声・発音の特徴を理解し、聞き手が聞き取りやすい話し方、および講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して理解し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第18回	学生への対応(自己表現)	2012/09/13(木)	15:30～17:00	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長・教授)	相互理解を深めるコミュニケーション・アサーション(自分も相手も大切に自己表現の方法)を学ぶ	30	全教職員	①自分の指示や指導の仕方の特徴を知ることができる。 ②自分の気持ちも相手の気持ちも大切に指示、指導を身につけることができる。
第17回	学生への対応(自己表現)	2012/09/13(木)	13:30～15:00	沖 裕貴 氏 大学教育研究センター客員教授(立命館大学 教育開発推進機構 教育開発支援センター長・教授)	相互理解を深めるコミュニケーション・アサーション(自分も相手も大切に自己表現の方法)を学ぶ	30	全教職員	①自分の指示や指導の仕方の特徴を知ることができる。 ②自分の気持ちも相手の気持ちも大切に指示、指導を身につけることができる。

キャリアアッププログラム 開催記録 (2009年度～2017年度)

第16回	授業技術(話し方)	2012/07/04(水)	13:30～15:30	芳川 猛 大学教育研究センター客員教授(元東海テレビアナウンサー)	講義のための「話し方の基本」	12	全教職員	自分の話し方を分析するとともに、日本語の発声・発音の特徴を理解し、聞き手が聞き取りやすい話し方、および講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して理解し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第15回	授業運営・ICT	2012/03/14(水)	13:30～15:00	平井 慎治 学術情報センター 課長補佐	授業支援ツール:Blackboard Learn (e-Learningシステム)の活用	20	全教職員	①Blackboardの主な機能について理解し、どの機能を自分の授業で利用したいかを決めるのに役立つことができる。 ②Blackboardでよく使用する機能について、「教員」と「受講生」両方の立場で体験し、授業の補充ツールとして利用することができる。
第14回	授業運営・ICT	2012/03/13(火)	13:30～15:00	平井 慎治 学術情報センター 課長補佐	授業支援ツール:Blackboard Learn (e-Learningシステム)の活用	20	全教職員	①Blackboardの主な機能について理解し、どの機能を自分の授業で利用したいかを決めるのに役立つことができる。 ②Blackboardでよく使用する機能について、「教員」と「受講生」両方の立場で体験し、授業の補充ツールとして利用することができる。
第13回	学生への応対(聴く力:積極的傾聴法)	2012/02/28(火)	15:30～17:00	沖 裕貴氏 (立命館大学 教育開発推進機構 教授)	相互理解を深めるコミュニケーション「受動的に聴く力」-イヌバラ法を通して- 内容:イヌバラ法を使ってワークショップ形式で実施する。イヌバラ法とは、傾聴法を学ぶ手法の一つでロール・プレイングによる実習方法である。	40	全教職員	①あいづち、繰り返し、相手の言葉をまとめて聞き返すなど、相手の気持ちを受け止めながら聴く技術(積極的傾聴法)を身につける。 ②相手を受容することで、相手の話の背景にある意見や気持ちを推察する方法を身につける。
第12回	授業技術(伝える力)	2012/02/28(火)	13:30～15:00	沖 裕貴氏 (立命館大学 教育開発推進機構 教授)	より良い授業のための留意点(話し言葉に着目して) -図形並べ- 内容:参加者は少人数のグループに分かれ、簡易なパズルを用いてワークショップ形式で実施する。	30	全教職員	①自分の指示すべき情報が、どの程度、口頭で的確に伝達されるかを体験する。 ②フィードバック(質問、聞き直し)がある場合とない場合で、どの程度口頭による指示の伝達が異なるかを体験する。 ③教員が得意とする言語情報(verbal communication)の限界を体験する。
第11回	授業技術(話し方)	2011/12/05(月)	15:30～17:30	芳川 猛 大学教育研究センター客員教授(元東海テレビアナウンサー)	講義のための「話し方の基本」	12	全教職員	自分の話し方を分析するとともに、日本語の発声・発音の特徴を理解し、聞き手が聞き取りやすい話し方、および講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して理解し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第10回	授業技術(話し方)	2011/12/01(木)	15:30～17:30	芳川 猛 大学教育研究センター客員教授(元東海テレビアナウンサー)	講義のための「話し方の基本」	12	全教職員	自分の話し方を分析するとともに、日本語の発声・発音の特徴を理解し、聞き手が聞き取りやすい話し方、および講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して理解し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第9回	授業運営・ICT	2011/07/07(木)	17:10～18:40	杉井 俊夫 教授 (大学教育研究センター副センター長、都市建設工学科) 寺澤 朝子 教授 (大学教育研究センター副センター長、経営学科)	授業の双方向性を高めるCumoc(キューモ:Chubu University Mobile Clicker)の活用	20	全教職員	① Cumocを利用した授業運営について理解し、授業改善アンケートシステムをクリックカーとして利用することができる。 ② 仮想環境を活用した実習を通して教員(PC)、学生(携帯電話、PC)双方の操作を経験し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第8回	授業技術(話し方)	2011/06/28(火)	15:30～17:30	芳川 猛 大学教育研究センター客員教授(元東海テレビアナウンサー)	講義のための「話し方の基本」	15	全教職員	自分の話し方を分析するとともに、日本語の発声・発音の特徴を理解し、聞き手が聞き取りやすい話し方、および講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して理解し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第7回	授業技術(話し方)	2011/06/24(金)	15:30～17:30	芳川 猛 大学教育研究センター客員教授(元東海テレビアナウンサー)	講義のための「話し方の基本」	15	全教職員	自分の話し方を分析するとともに、日本語の発声・発音の特徴を理解し、聞き手が聞き取りやすい話し方、および講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して理解し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第6回	授業デザイン(成績評価方法)	2010/11/10(水)	16:30～18:30	城間 祥子氏 (愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 助教)	学習評価の基本	30	全教職員、成績評価方法を取得したい教員	①評価の原則を説明することができる。 ②形成的評価と総括的評価の違いと重要性を説明できる。 ③多様な成績評価方法を知り、自らの授業で活用できる。

キャリアアッププログラム 開催記録 (2009年度～2017年度)

第5回	授業デザイン (シラバス)	2010/11/10(水)	13:30～15:30	城間 祥子 氏 (愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 助教)	授業時間外学習を促すシラバスの書き方	30	全教員、シラバスをより良いものにした たい教員	①わかりやすいシラバスを書くことができるようになる。 ②学習者が自学自習に励むようなシラバスを書くことができるようになる。
第4回	授業技術(話し方)	2010/07/30(金)	13:30～15:30	芳川 猛 氏 (元東海テレビアナウンサー、 榊東海テレビプロダクション相談役)	講義のための「話し方の基本」	15	専任教員	自分の話し方を分析するとともに、日本語の発声・発音の特徴を理解し、聞き手が聞き取りやすい話し方、および講義をするときに注意が必要な話し方のコツを実習を通して理解し、習得したことを自分の授業に生かすことができるようになる。
第3回	授業デザイン(ゼミ・グループ学習)	2010/02/24(水)	10:00～12:00	小林 直人 氏 (愛媛大学 教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長、教授)	グループワークの効果的な進め方	30	授業でのグループワークやゼミでのディスカッションをより活性化させた い教員	①学生がいきいきとグループワークに参加できる仕組みやグループワークの具体的な進め方について体験を通して習得する。 ②より活発なグループワークを仕掛けることができるようになる。
第2回	授業技術・運営 (大人数講義)	2010/02/23(火)	15:00～17:00	小林 直人 氏 (愛媛大学 教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長、教授)	大人数講義法の基本・コツ	50	全教員、特に教歴が3年以下の教員	①わかりやすく、知的な緊張感があり、学生が参加する(学生が参加した気にさせる)授業ができるようになる。 ②様々な授業スキルを実際の体験を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことができる。
第1回	授業技術(話し方、 板書、ノートの取らせ方など)	2009/12/15(火)	(1部)15:30～17:00 (2部)17:10～18:40	(1部) 小林 礼人 准教授 (工学部理学教室) (2部) 松原 敬生 氏 (元東海ラジオアナウンサー、 榊東海バック代表取締役社長)	(1部) 伝えたい思いを わかりやすい授業へ (2部) 伝える思いと聞かせる 術 一聞は効くー	50	全教員、特に新任教員で教歴が3年以下の教員	伝え方や聞かせ方の手法や技術などを知ることによって、わかりやすく、知的な緊張感があり、学生に参加した気にさせる授業ができるようになる。